



千葉市立幕張小学校

Happy World ～ SDG を解決しよう！ ～



ここがポイント！

岡野 有為先生



この指導案は、4年生の総合的な学習の時間において、探究課題を「世界の国々の文化や現状と持続可能な世界を目指す人々や組織」と設定して行った際のものです。

探究課題をSDGsと関連付け、社会との連携・協働を重ねた学習を実践することで、自己を見つめ生き方について考えを深めることができる児童を育成することを目的としています。まず児童が世界の文化や現状を知るために、多文化共生出前講座を活用しています。

この講座を行う前には、多文化共生マネージャーを中心に、外国人講師の方としっかりと打ち合わせを行うことができるため、児童の実態に合わせた話をさせていただくことができました。

第4学年3組 総合的な学習の時間 学習指導案

指導者 岡野 有為

1 単元名 Happy World ～SDGsを解決しよう！～

2 児童の思いと教師の願い

児童は、総合的な学習の時間を「友達と協力する」「千葉県以外の人にも目を向けて関わりを広げる」ものにしたいと話し合い、学習課題を探ることにした。その中で、道徳の学習のときに、ホームステイしている子どもが豚肉を食べない教材文を読み、「好き嫌いしてわがままを言っている」と自分たちが勘違いしたことを思い出した。また、幕張でオリンピック・パラリンピックが行われ、世界からたくさんの人が日本に訪れたり、自分たちが大人になったときはもっと国際化が進展し、世界の人と関わりながら生活したりすることにも着目し、世界の人々と仲良く過ごすためには、様々な国のことを理解した方がよいと気付いた。さらに、本学級でクイズ係がSDGsクイズを毎週行っていることにも着目した。しかし、SDGsの意味について自分たちがあまり理解していないと気づき、SDGsの特集を行っている「子ども新聞」を読んでみることにした。すると、地球でみんなが幸せに住み続けるために、世界の政府だけでなく、日本の子どもたちの中にも、SDGs達成のために取り組んでいる人たちがいることを知った。これらのことを基に学習していきたいことを話し合った結果、児童は、世界の文化や現状について理解を深め、SDGs達成を目指して行動することで、世界中の人が幸せで、共に仲良く過ごすことのできる世界を創りたいという思いを高めていった。

国際化は急速に進展しており、異なる文化との共存や国際協力の必要性を増大させている。日本も含め、世界各国が持続可能な発展を遂げるためには、環境問題や少子・高齢化などの多種多様な課題に協力しながら積極的に対応することが求められる。このような社会では、異文化を背景にもつ人や自然を尊重し、共に生きることが出来る寛容性を養成する必要がある。しかし、本学級の児童は、他国の方との関わりも少なく、世界のことに興味はあるものの、ほとんどの児童が「いくつかの国名なら知っている」というくらいの知識しかない。そこで、本単元では、様々な地域の国の方と交流したり、SDGsの取組を行っている企業やJICA、ユニセフの方から話を聞いたりすることで、世界には多様な文化が存在し、異なる文化的背景をもつ人々が協力して、世界の課題に取り組んでいることを理解させたい。また、様々な立場の人のSDGs達成に向けて取り組む思いや、持続可能な社会を創るために特色・立場を生かして活動内容を工夫していることにも気付かせたい。SDGs解決に向けて実際にできることを考え、実行する過程では、学校の人たちにも世界に関心をもってもらう方法を検討したり、自分たちが今できるSDGs達成に向けた活動について話し合ったりすることを通して、根拠を明らかにしながら比較したり、多面的に考えたりする力を身に付けさせたい。そして、SDGs解決に向けて自分たちが活動できたことから、地域や世界に愛着をもち、自分たちにできることを考え続けて生活しようとすることを期待している。

3 単元目標

「世界中の人が幸せで、共に仲良く過ごすことのできる世界を創りたい」という思いの実現に向け、SDGs解決を目指した活動をするを通して、世界各国の文化や課題を理解したり、持続可能な社会を創ろうとしている人々の取組や思いに気付いたりして、SDGsを達成するために自分たちができるところを考えるとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

4 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①地球上全ての人が幸せな世界を創るためには、世界の様々な文化・習慣を理解し、尊重して共に生きる社会を構築したり、数多くの課題に地球上の人々が協働して取り組んだりする必要があることを理解している。 ①SDGs 達成に向けて活動している企業・機関の取組や思いを知ること、様々な人が持続可能な社会を創るために努力や工夫をしていると理解している。 ②図や表を使って整理するよさを理解して、目的に応じて考えるための技法を活用して、分析している。 ③世界の課題に対する自分の行動の変容は、多文化共生と SDGs の取組について探究的に学習してきたことの成果であると気付いている。	①SDGs と自分たちの生活の関わりから課題を明確に設定し、その解決に向けて行いたいことについて順序を考えながら計画を立てたり、解決する過程の中で新たに課題を見付けたりしている。 ②各国の文化・習慣や SDGs の取組に必要な情報について、効果的な手段を集団で選択しながら収集し、内容ごとに分類して蓄積している。 ③持続可能な社会を創るために情報を整理したり、理由や根拠を明らかにして比較したり関連付けたりしながら、解決に向けて考えている。 ④相手意識や目的意識を明確にもちながら、各国の特徴や SDGs 解決に向けた活動内容を工夫して分かりやすくまとめたり、発信したりしている。	①SDGs 解決に向けて自分たちにできることを考え、実行する活動を通して、分かったことや感じたことなどを見つめ直し、自己の成長を捉えようとしている。 ②自らの経験や生活と SDGs の関係を振り返ることで、持続可能な社会創りに対する思いや願いをもち、その実現に向けて粘り強く取り組もうとしている。 ③外国の方や、SDGs 達成に向けて活動している企業・機関の方、友達と主体的に関わり、様々な立場の人の意見を受け入れたり、友達と協力して課題解決に取り組んだりしている。 ④SDGs 解決に向けた活動を通して、自身の生活を改善したり、地域や世界のためにできることを考え、自ら行動しようとしていたりしている。

主体的 ①自己理解 ②主体性 ③他者理解・協働性 ④将来展望・社会参画

5 仮説との関連

研究仮説

探究課題を SDGs と関連付け、ESD の視点で学校外の社会との連携・協働を重ねていけば、児童は、自分が地域や社会を担う主体であると自覚し、自己の生き方を考えることができるだろう。

本単元では、探究課題を「世界の国々の文化や現状と持続可能な世界を目指す人々や組織」と設定した。世界でも注目されている現代社会の問題を、児童が自らの問題として主体的に捉えられるように、まず第1次では、他国の方や多文化共生マネージャーから話を聞く場面を設定する。他国の方から、環境問題や差別などに対しての話を聞くことで、一つの国の人たちだけでは解決しない問題があることに気付くことができるだろう。また、日本人も外国人も共に暮らしやすいまちづくりを目指し、施策の立案・実践や、関係者間のコーディネート等を専門に行っている多文化共生マネージャーから、世界中の人々が共に協力し、生活していくことの重要性について話を聞くことで、児童は、自分たち一人一

人が社会を担う主体として行動する必要性を深く感じることができると考える。

第2次では、SDGsの取組を行っている企業に協力を仰ぎ、SDGs達成に向けて行動している理由や、具体的な活動内容について取材をする。フェアトレードチョコレートなどを例に挙げ、企業の利益だけを重視しては社会が持続しないことや、SDGs達成に向けて取り組む意義を説明してもらうことで、SDGsのキーワードである「誰一人取り残さない」幸せな未来を築くためには、他者のことも考え、自らの行動を変容することが大切だと気付くことと考える。また、JICA青年海外協力隊として活動した方から体験談を聞いたり、ユニセフの方から活動内容について話を聞いたりすることで、一人一人が世界のために行動できるチャンスがあり、行動を変えるのは自らの思い次第であると気付くことができると考える。そして、自分たちができることを考え、実践していく活動を通して、自分たち一人一人が身近なことに気を付け生活を改善していくことで、SDGs達成に近付くことができると理解し、自らの今後の生き方を考えることができるようになるだろう。

6 単元計画（70 時間）

過程	主な学習活動	時数
第一次 世界の人と仲良くなるために（39 時間）		
課題設定	○昨年度の総合的な学習の時間でどのような力が身に付いたか整理する。 ○今年の総合的な学習の時間で目指したい姿、達成したい姿を話し合う。 ○これまでの学習経験や生活経験を振り返り、総合的な学習の時間で目指したい姿、達成したい姿を叶えられる活動を考える。 ○自分たちの取組の見通しをもつ。	5
情報収集	○アメリカ合衆国出身の ALT の方に、取材する。 ○千葉県国際交流センターの出前授業を活用し、ペルー・トルクメニスタン出身の方に、取材する。 ○フィリピン出身の ALT の方に、取材する。 ○千葉県商工労働部観光誘致促進課の出前授業を活用し、台湾出身の方に取材する。 ○台湾の小学生とオンライン交流を行う。	17
整理分析	○各国のことについて、インターネットや本で調べたり、取材したりして分かったことを整理する。 ○学校の人たちに伝えたいことを話し合う。 ○学校の人たちにどのような方法で伝えるか決める。	8
まとめ表現	○世界のことで学校の人たちに伝えたいことをまとめる。 ○学校の人たちに世界のことを伝える。 ○これまでの活動で感じたことやわかったことについて話し合い、振り返りをまとめる。	9
第二次 世界中の人に幸せを！自分たちにできる SDGs（31 時間）		
課題設定	○様々な国の方から聞いた各国の課題を確認したり、日本の課題について考えたりする。 ○SDGs について確認する。 ○SDGs 解決に取り組むための見通しをもつ。	3
情報収集	○企業や組織等が行っている SDGs の取組を調べる。 ○取材のお願いをする。 ○製菓会社が行っている SDGs の取組について取材する。	10

	○製薬会社が行っている SDGs の取組について取材する。 ○JICA 青年海外協力隊としてキルギスに派遣されていた方に活動内容を取材する。 ○日本ユニセフ協会の活動内容について取材する。 ○世界のために自分たちができそうな取組を調べる。	
整理 分析	○取材して分かったそれぞれの企業・組織等の活動内容や、携わる人々の思いを整理する。 ○自分たちが SDGs の取組を行う上で、大切にしたい視点を話し合う。 ○自分たちの思いと照らし合わせながら、実際に行う SDGs の取組を決める。 （書き損じはがきの回収→寄付の場合） ○書き損じはがきを回収する方法を考える。	7
まとめ 表現	○書き損じはがきを回収するための準備を行う。 ○書き損じはがきを回収し、その成果をまとめる。 ○協力していただいた方に活動報告をするとともに、感謝の手紙を渡す。 ○これまで活動に関わってくれた人の感想をもとに、1 年間の活動を振り返る。 ○今後行いたい国際支援というテーマで作文を書き、発表する。	11

7 小単元の流れ

第一次 世界の人と仲良くなるために（36 時間）

過程	主な学習活動（○） 児童の思いや願い	支援（◎） 主な評価（☆）
課題 設定 (5)	○昨年度の総合的な学習の時間でどのような力が身に付いたか整理する。 ○今年の総合的な学習の時間で目指したい姿、達成したい姿を話し合う。 ○これまでの学習経験や生活経験を振り返り、総合的な学習の時間で目指したい姿、達成したい姿を叶えられる活動を考える。 ○課題を解決するために必要な活動を話し合う。 ○自分たちの取組で行う活動内容の順序を決める。 3 年生のときには、身近な地域の人限定して考えていたけど、今年はもっと多くの人のためになることがしたい。今、話題になっている SDGs について自分たちにもできることがありそうだから少しでも解決に近づくように頑張りたい。まずは、世界のことを全然知らないからいろいろな人に話を聞いてみたいな。	◎他の国には、日本とは異なる生活や文化があることに気付くことができるように、道徳の学習で外国の習慣についての教材を扱う。 ◎昨年度、外部の方と協力した際の成果を振り返り、専門的な知識をもつ人たちの協力で考えが深まったことを想起させる。 ☆思判表① ☆主体的②
情報 収 集 (17)	○アメリカ合衆国の基本情報や学校生活の様子、文化などについて調べる。 ○アメリカ合衆国の方に質問したいことを考える。 ○アメリカ合衆国出身の ALT の方に、取材する。 ○ペルー・トルクメニスタンの基本情報や学校生活の様子、文化などについて調べる。 ○ペルー・トルクメニスタンの方に質問したいことを考える。 ○千葉県国際交流センターの出前授業を活用し、ペルー・トルクメニスタン出身の方に、取材する。	◎様々な地域の国の方を講師として招くことで、世界にはいろいろな文化や習慣があることに気付くことができるようにする。 ◎各国の講師の方の話を聞く前に、インターネットや本で情報収集を行っておくことで、自分たちで調べ

	○フィリピンの基本情報や学校生活の様子、文化などについて調べる。 ○フィリピン出身の方に質問したいことを考える。 ○フィリピン出身の ALT の方に、取材する。 ○台湾の基本情報や学校生活の様子、文化などについて調べる。 ○台湾出身の方に質問したいことを考える。 ○千葉県商工労働部観光誘致促進課の出前授業を活用し、台湾出身の方に取材する。 ○台湾の小学生とオンライン交流を行う。	でも分からない点を明らかにし、講師に取材したいことを明確にできるようにする。 ◎外国の講師の方に、自国の課題についても話をしてもらうように依頼しておくことで、第2次の SDGs の取組につなげられるようにする。 ☆知技① ☆思判表② ☆主体的③
整理・分析 (8)	○様々な国について、インターネットや本で調べたり、取材したりして分かったことをテーマ別に分けて、「Jamboard」に書き出す。 ○様々な国について分かったことを一覧表に整理する。 ○学校の人たちに伝えたい内容を考える。 ○様々な発表方法を考える。 ○発表内容グループ別に、どのような方法で学校の人たちに伝えるか決める。	◎「Jamboard」に調べたことを書き出すことで、各々が事前に調べた情報や取材時に分かったことを素早く共有できるようにする。 ◎取材した国と日本の情報について表を用いて整理することで、共通点や相違点を比較しやすくする。 ☆知技② ☆思判表③ ☆主体的③
まとめ・表現 (9)	○グループに分かれて、発表する内容の詳細を決める。 ○発表に向けて掲示物や本、カレンダーなどを作成する。 ○協力してくれた方にイベントの招待状を配布する。 ○本やカレンダーを各学級に配布したり、イベントを開催したりする。 ○これまでの学習を振り返る。(本時) ○活動の成果と課題を整理する。	◎自らの学びを意味付けたり、価値付けたりして学びの成果を実感することができるよう、学校の人たちや協力者から感想をもらう。 ☆知技③ ☆思判表④ ☆主体的①④

8 本時の学習(38/39)

(1) 本時目標

これまでの学習を振り返る活動を通して、分かったことやできるようになったこと、感じたことを見つめ直すことで、自分が地域や社会の一員であると自覚したり、自己の成長を捉えようとしたりする。

(学びに向かう力、人間性等)

(2) 本時に向かう児童の実態

※前時の実態を踏まえ、後日別紙にて。

(3) 本時の展開

時配	学習活動と内容(○)・児童の予想されるつぶやき(・)	教師の支援(◎)・評価(☆)
1	○学習課題を確認する。 これまでの学習で、できるようになったことや分かったことを振り返ろう。	
2	○本時のループリックを確認する。 4 できるようになったこと、分かったことなどが様々な面から5つ以上分かり、自分が世界をよくしていくことのできる一人だと自信をもっている。 3 できるようになったこと、分かったことが3つ以上分かり、自分は世界をよくしていくことのできる一人だと思っている。 2 友達の発表を聞いて、できるようになったことや分かったことに気づき、自分は世界をよくしていくことのできる一人だと思っている。 1 友達の発表を聞いても、できるようになったことや、分かったことを理解したり、世界をよくしていく一人だと思ったりすることが難しい。	◎本時の学習における到達段階をループリックとして事前に示すことで、学習活動のねらいや具体的な見通しをもって学習を進められるようにする。
4	○学習スタート時の思いを確認する。 友達と協力 幕張から広げて考える。千葉市→千葉県 もっと地域の人と関わりたい。 ↓ 自分たちが SDGs 達成に向けて行動することで、 HAPPY WORLD (幸せな世界) にしたい！ ↑ <第1次> ◇まず世界のことをもっと知りたい。 ◇分かったことは学校の人にも広めて世界に興味をもってもらいたい。	◎これまでに使用したワークシートや振り返りシートを内容別、時系列に蓄積する時間を定期的に設けておくことで、振り返りしやすいようにしておく。 ◎学習スタート時の思いを確認することで、ゴール時の思いと比較できるようにする。 ◎4月から10月までの活動内容を左から右に時系列に整理して板書することで、これまでの活動の流れを確認しやすくする。

10	○活動の中で関わった人たちを想起しながら、分かったこととや感じたことについて話し合う。 ・どこの国もおもしろい食べ物や、行ってみたい観光地があった。 ・その国に行ってみたくなった。 ・日本と全然違うところも同じところもあった。 ・インターネットでは調べても分からなかったことも分かった。 ・国によって困っていることも違うのだなと思った。	◎活動の中で関わった人たちを具体的に思い出すことができるように、協力者の写真を黒板に掲示したり、掲示物で授業の内容を確認できるようにしたりする。 ◎振り返りカードを見て、外国人講師の話聞いたあとの感想を確認するように促す。
13	○展示会に対する、外国人講師からのビデオメッセージを視聴したり、校内の人からの感想を読んだりして、感じたことを発表する。 ・たくさんの人が見に来てくれて嬉しい。 ・学校の人たちが世界のことに興味をもってくれてよかった。 ・自分たちの活動は意味があったと感じた。 ・子どもでも、自分たちなりにできることがあると感じた。 ・世界の人と実際に仲良くなれたわけではないけど、少し近づけたと思う。 ・地域に住む外国の方とも仲良く暮らしていけるようになるといいな。	◎展示会は、SDGsの「10.人や国の不平等をなくそう」「11.住み続けられるまちづくりを」の達成に近付くことを目指した、日本人も外国人も暮らしやすいまちづくりのための地域社会に対する多文化共生の意識啓発活動の一環であることを確認する。 ◎「児童が多文化共生の一端を担うことができたか」という視点を含めて外国人講師から感想をもらえるように依頼しておくことで、児童が社会貢献と自らの活動を関連して振り返りができるようにする。 ◎様々な児童の意見を短時間で共有するために、タブレット端末を用いて、「Jamboard」に児童が各々感じたことを付箋で記入する時間を設ける。
3	○自分たちの活動の成果について話し合う。 ・学校の人たちに（地域の人たちの一部）世界のことを広めることができた。 ・世界の人の生活に興味をもってくれる人を増やせた。	◎課題については、次時の学習で振り返り、本時では、自己の成長をしっかりと捉えられるように、成果に焦点を当てて話し合いを行うようにする。
2	○千葉県国際交流センターの多文化共生マネージャーから、これまでの活動に対する感想や、これからの活動に向けてのアドバイスをいただく。	◎児童一人一人が地域や社会を担う主体として自覚し、行動することの意義や、国際的な課題についても話をしてもらえるように依頼しておくことで、第2次の課題設定につながるようにする。

10	○振り返りをまとめ、次時のめあてを確認する。 ・これまでの活動で、学校の人たちに世界のことにについて広めることができてよかった。自分たちも世界のことが分かった。多文化共生マネージャーの方が話していたように、これからは私たち一人一人が世界を良くできるように考えて行動していきたい。 ・学校の人たちが、世界のことに興味をもってくれてよかった。自分たちのしたことには意味があると思えた。次は、私たちがSDGsの取組を行うことで、世界のみんなが少しでも幸せに暮らせるようにしたい。	◎ループリックを再度確認するように助言し、明確な基準をもとに自己評価できるようにする。 ◎振り返りを書く時間を設定することで、本時の学びを個々が整理し、活動の成果を自覚することができるようにする。 ☆これまでの学習を振り返り、分かったことやできるようになったこと、感じたことを見つめ直して、自分が地域や社会の一員であると自覚したり、自己の成長を捉えようとしたりしている。 【主体的に学習に取り組む態度】
----	--	---